

かわさき区の宝物シート

宝物No.
2-1

かわさきのうがくどう 川崎能楽堂



エリア	中央地区	シーズン	通年
	川崎駅前南	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input checked="" type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input checked="" type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



写真提供：(公財)川崎市文化財団

所在地	川崎区日進町1-37
問い合わせ	(公財)川崎市文化財団
TEL	044-222-8821
FAX	044-222-8817
E-mail	
URL	http://homepage2.nifty.com/k-bunkazaidan/noh/index.htm ((公財)川崎市文化財団HP/川崎能楽堂)
交通	JR川崎駅より徒歩10分



基礎情報

■能をはじめとする古典芸能や邦楽の発表・鑑賞の場。身近に能楽鑑賞ができる首都圏屈指の本格的な能楽堂として好評を博している。能楽以外の伝統芸能の発表の場としても使用される。5.5m四方の能舞台を、三方から148席（正面55、脇正面40、中正面53）の客席が囲む。舞台背景となる鏡板には川崎市在住の日本画家・結城天童氏の「松」が描かれている。

由来・エピソード

■昭和61年(1986)開設。能楽は独特の様式を持った我国の古典劇。舞台のつくりにも独自の伝統的な様式が求められる。そのため、多目的ホールの舞台などでは能楽のための空間をつくり出すことは非常に困難とされている。川崎能楽堂は、日本の歴史や伝統文化をもう一度じっくりと足元から見直すことのできる数少ない場のひとつとなっている。

■川崎における能楽活動は、戦後間もない頃市内の会社や工場で働く人々によってつくられた能楽愛好会が中心となって「川崎市能楽謡曲連合会」（川能連）が発足したところから始まった。川能連の要望や活動を受けて、労働会館と産業文化会館（現・教育文化会館）などに本格的な組立舞台が実現した。川崎大師平間寺では、奈良の興福寺に起源をもつ「薪能」が開催されるとことともなり、現在川崎を代表する文化行事にも位置づけられるに至った。このような背景のなか、伝統芸能を演じる舞台としてふさわしい装備を誇る、本格的なホールとして川崎能楽堂は誕生した。

補足・その他

関連シート

かわさき区の宝物シート

宝物No.	とうきょうがすきっちゃんらんどかわさき
2-2	東京ガスキッチンランド川崎



エリア	中央地区	シーズン	通年
	川崎駅前南	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る <input checked="" type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input checked="" type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input checked="" type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい
	<input checked="" type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物



写真提供：東京ガス(株)川崎支店

所在地	川崎区小川町6-1 東京ガス川崎ビル1F
問い合わせ	東京ガスキッチンランド川崎
TEL	044-211-8172
FAX	
E-mail	
URL	http://www.tg-cooking.jp (東京ガスHP/キッチンランド川崎)
交通	J R川崎駅東口徒歩6分



基礎情報

■平成17年(2005)7月23日オープン。東京ガスの食の情報発信基地として、また最新のガス機器を調理体験できる場として、食育教室「キッズ イン ザ キッチン」、「エコ・クッキング」、男性向けの「男だけの厨房」、初心者向けの「ビギナーズコース」、料理好きの方への「グレードアップコース」や「ラ・クチャーナ・エスプレッサ」、外部から講師を招いての「特別料理教室」などさまざまな料理教室を展開。

由来・エピソード

■キッチンランドとは、長年、キッチンの中心となる炎を担ってきた東京ガスが展開する料理教室。東京ガスが発信する多様な食のテーマ、ライフスタイルを実際に「見て、触れて、味わう」ことの出来る「食」のオープンスペースである。
 ■地元川崎の料理研究家やシェフ、パティシエ、行政や生産者などの地域のネットワークを活かし、これまで「かわさきマイスター」の横溝春雄氏(2010年認定)による洋菓子教室や、JAセレサ川崎と協働し、かわさき農産物ブランド「かわさきそだち」の野菜の収穫体験とその野菜を使った料理教室イベント「ファミリー食育クッキング」など、地域に密着した料理教室も開催。

補足・その他

- 営業時間は9:00~17:00
- 定休日は月曜日、その他教室休業日
- 料理教室はホームページからの申し込みも可能

関連シート

かわさき区の宝物シート

宝物No.	らちったでつら
2-3	ラ チッタデッラ

エリア	中央地区	シーズン	通年
	川崎駅前南	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る <input checked="" type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input checked="" type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input checked="" type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input checked="" type="checkbox"/> にぎわい <input checked="" type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物



写真提供：(株)チッタ エンタテイメント

所在地	川崎区小川町4-1
問い合わせ	ラ チッタデッラ
TEL	044-223-2333 (代)
FAX	
E-mail	
URL	http://lacittadella.co.jp/
交通	JR川崎駅より徒歩5分 京急川崎駅より徒歩7分



基礎情報

■イタリアの丘陵に造られた街、ヒルタウンをモチーフとした敷地面積約1.6万㎡のエンタテイメントエリア。石畳の小道や噴水がロマンチックな雰囲気醸し出す。マッジョレ、ピバーチェなどのエリアで構成され、映画や音楽、食事、ショッピングが楽しめる。「ラ チッタデッラ」とはイタリア語で「城壁」の意で、外観はイタリアのトスカーナ地方がイメージされている。

■平成14年(2002)11月のオープン後、一躍川崎の新しい顔となった。平成16年(2004)、米国「ショッピング・センター・ワールド誌」主催の世界の優れた小売店を表彰する「SADI賞」新オープンエアセンター部門において最優秀賞を獲得。さらにシネマコンプレックス「チネチッタ」の年間観客動員数と興行収入が平成15～18年の4年連続で全国首位となる栄冠に輝いた。

由来・エピソード

■ラ チッタデッラの前身は昭和12年(1937)に誕生した「川崎映画街」。東京・日暮里を拠点に映画館事業を展開していた美須興行(後の(株)カワサキ・ミス、現在の(株)チッタ エンタテイメント)が川崎に進出、市内で初となる6館からなる映画館街が完成した。8年足らずして大空襲により全館が灰に帰すも、終戦直前の昭和20年(1945)7月、復興第1号となる「川崎銀座座」を開業。以降川崎の戦後復興に大きく貢献した。昭和37年(1962)には大小16の映画館が揃い、昭和40年(1965)にはスポーツセンターもオープンし、映画・スポーツを軸とした一大娯楽文化エリアが完成、昭和の終わりまで長きにわたり活況を呈した。昭和60年(1985)、一帯ではカワサキ・ミスによる再開発事業が着手された。昭和62年(1987)のシネマコンプレックスの先駆けとなる「チネチッタ」、翌年の大型ライブホール「クラブチッタ」のオープンを経て、平成14年(2002)11月には複合商業施設「ラ チッタデッラ」が完成、現代的な文化情報発信地として生まれ変わり大きな集客力を誇っている。

■施設概要

○VIA CINECITTA'<チネチッタ通り> 非日常空間へ誘う玄関口。ヨーロッパのプロムナードの雰囲気が漂う。

○MAGGIORE<マッジョレ> LA CITTADELLAのメインエリア。シネマコンプレックスCINECITTA'や約50の個性豊かなショップとレストランに加え、頂上の丘の上には「カペラ サンタンジェロ(天使の教会)」と名付けられたチャペルがあり、シネマのような結婚式を提案している。

○VIVACE<ピバーチェ> アパレル・雑貨・ビューティ・アミューズメントなどのショップとレストランが詰った地下1階地上6階建てのタワー型エリア。マッジョレとは空中ブリッジによって繋がる。ブリッジからは360度広がるイタリア風の街並みが楽しめる。

○PICCOLO<ピッコロ>メンズ・レディースのビジネス&ビジカジスタイルを提唱するORIHICAが入居するアパレル区画。

○VIA CLUB CITTA'<クラブチッタ通り> CLUB CITTA'前の通り。深夜まで営業のレストラン・バーやショップが並ぶ。

○CLUB CITTA'<クラブチッタ> 最新の音響設備が整うイベント空間。ライブ、演劇、ファッションショーなど多彩なイベントが繰り広げられる。

補足・その他

■12月上旬～25日までの「NATALE」(ナターレ:イタリア語でクリスマスの意味)期間中は、クリスマスムード一色となる。各ショップやレストランで、クリスマスギフト商品の販売やクリスマスメニューなどが登場。また大晦日にはイベント「カウントダウンニューイヤー」が催される。

関連シート

(1-23) 銀柳街・銀座街
(2-4) カワサキ ハロウィン
(2-5) 銀映会(川崎映画街)

かわさき区の宝物シート

宝物No.	かわさきはろういん
2-4	カワサキ ハロウィン

エリア	中央地区	シーズン	秋
	川崎駅前南～川崎駅前北	日時	24年の歴史に幕

目的	<input type="checkbox"/> 観る <input checked="" type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input checked="" type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input checked="" type="checkbox"/> にぎわい <input checked="" type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物



写真提供：(株)チッタ エンタテインメント

所在地	JR川崎駅東口一帯
事務局	(株)チッタ エンタテインメント内 カワサキ ハロウィン プロジェクト
TEL	044-233-1934
FAX	
E-mail	
URL	
交通	



基礎情報

■毎年10月31日直前の土日曜をメインに、チネチッタ通りを中心としたJR川崎駅東口一帯で開催されるハロウィンのイベント。11万人以上の観客でにぎわう仮装ダンスパレード『ハロウィン・パレード』をメインに、チネチッタ特選のハロウィン映画祭などバラエティ豊かなイベントが満載
 ■2021年8月24日に事務局のチッタ エンタテインメントが「カワサキ ハロウィン」の終了を発表し、24年の歴史に幕を下ろした。

由来・エピソード

■ハロウィン最大のハイライトが、お化けや映画のキャラクターに仮装した内外の若者約3000人が行進するダンスパレード。川崎駅東口一帯の約1.5kmをパレードが行進する。子どものみで結成される『キッズパレード』も別日に開催され、子どもも大人も楽しめるイベントで、観客は10万人を超え大きな盛り上がりを見せていた。
 ■終盤の仮装コンテスト『ハロウィンアワード』では、各賞の授与が行われる。グランプリの「ベストパンプキン賞」にはイタリア旅行（ペア）と賞金10万円が贈られた。
 ■他にも東口商業施設連動で『スタンプラリー』や『仮装パーティー』、『ハロウィン映画祭』など盛りだくさんのイベントが連日連夜開催されていた。

補足・その他

--

関連シート

(1-23) 銀柳街・銀座街
(2-3) ラ チッタデッラ
(2-5) 銀映会(川崎映画街)

かわさき区の宝物シート

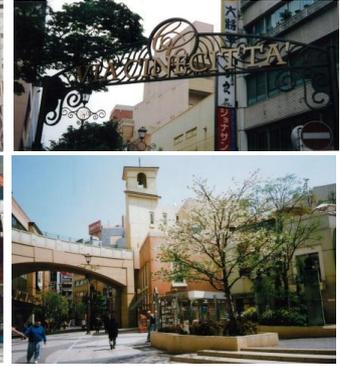
宝物No.	ぎんえいかい(かわさきえいがかい) 銀映会(川崎映画街)
2-5	

エリア	中央地区	シーズン	—
	川崎駅前南	日時	—

目的	<input type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input checked="" type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input checked="" type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



昭和31年の川崎映画街の風景(左上)
VIA CINECITTA'(上右)



解散直前(平成13年)の銀映会アーケード街(下左)と平成22年のチネチッタ通り(上右)
写真提供: 小串嘉男氏、チネチッタ通り商店街振興組合

所在地	現在のチネチッタ通り周辺 (商店街振興組合: 川崎区小川町7-4)
問い合わせ	チネチッタ通り商店街振興組合
TEL	044-211-6666
FAX	044-201-2566
E-mail	
URL	http://lacittadella.co.jp/vcc/
交通	JR川崎駅より徒歩5分 京急川崎駅より徒歩7分



基礎情報

■昭和12年(1937)春、小川町に「川崎映画街」が誕生した。東京・日暮里を拠点として映画館事業を展開していた美須興行(後の(株)カワサキ・ミス、現在の(株)チッタ エンタテインメント)が川崎に進出、市内で初となる6館からなる映画館街がつけられた。大空襲により全館が灰に帰すも、昭和20年(1945)7月には復興第1号となる「川崎銀座座」を開業した。昭和25年(1950)に設立された「銀映会」とともに街づくりを進め、川崎の戦後復興に大きく貢献する。昭和37年(1962)には大小16の映画館が揃い、続いて昭和40年(1965)までにはボウリング場・スケート場・プール・ゴルフ練習場を擁するスポーツセンターもオープンし、映画とスポーツを軸とした一大娯楽文化エリアが完成、以降昭和の終わりまでの長きにわたり多くの人々のにぎわいで活況を呈した。

■昭和60年(1985)、一帯はカワサキ・ミスによる再開発事業が着手され、映画街の一部は取り壊された。昭和62年(1987)のシネマコンプレックスの先駆けとなる「チネチッタ」、翌年の大型ライブホール「クラブチッタ」のオープンを経て、平成14年(2002)11月、複合商業施設「ラ チッタデッラ」が完成。現代的な新感覚の文化情報発信地として生まれ変わり、大きな集客力を誇っている。かつての銀映会も現在は「チネチッタ通り商店街振興組合」として、地域に根ざした活動を続けている。

由来・エピソード

■美須興行の創業者である美須嶺(こう)氏が東京・日暮里で映画館の経営に乗り出したのは大正11年(1922)のこと。日暮里駅前に第一金美館を開業するも、翌年の関東大震災によって一から再出発することになる。14年後、人口約17万人の川崎で映画街づくりをスタートする時には、延べ20館におよぶ金美館チェーンを展開していた。川崎初となった6館の映画館街は、8年足らずして大空襲により焼失。唯一残った石蔵を拠点として、美須氏はスタッフとともに焼け跡を整理し終戦直前の昭和20年(1945)7月、復興第1号の「川崎銀座座」開館にこぎつけた。終戦後、一面の焼野原の中、川崎映画街を中心に川崎駅前の復興の植音はひろがっていった。当時銀柳街を流れていた古川の埋め立てと、川崎映画街の完成によって人の流れが変わったことで、銀柳街も大きく発展していった。美須氏が寄贈し植樹された柳の木にちなみ、銀柳街と命名されたという。

■川崎映画街は、70mmフィルム映写機の豪華なロードショー館の川崎グランド劇場、川崎映画劇場、川崎日劇、川崎名画座を筆頭に、邦画封切では川崎東宝、川崎日活、川崎大映、川崎松竹、川崎東映の5系統など多彩な陣容を誇った。小川町以外にも堀之内東映や川崎中央劇場、川崎追分劇場と、区内各所にも劇場をオープンさせた。また、大田区蒲田にも8つの映画館を擁する蒲田東口映画街も手がけ、川崎・蒲田にまたがる健康的で明るい「娯楽のデパート」づくりが目指された。美須氏の「事業則奉仕」の理念のもと、京浜両方面における駅前開発推進に大きな役割を果たし、また川崎小学校にプールを寄贈するなど地域に根差した活動にも尽力したといわれる。

■潤いのある人間味あふれた都市環境づくりを目指した緑のあるモール化事業がスタートし、昭和56年(1981)には、四季折々多彩な花樹が植栽され往年の名画のモニュメントなどで彩られた「シネマストリート」が完成し脚光を浴びた。

■昭和57年(1982)、銀映会から分かれてミスサンモール通り会が設立され、やがてカワサキ・ミスとともに再開発事業を展開していく。平成3年(1991)、新たにチネチッタ通り商店街振興組合が発足し現在に至っている。銀映会の一部が新組合に移行した後、新川通り沿いの商店街によって存続していたが平成13年(2001)をもって解散した。

補足・その他

■平成14年(2002)には、国の中心市街地活性化法をいち早く適用し、チネチッタ通り商店街振興組合が関東エリアでは2番目となるTMO(まちづくり機関)認定事業者となり、「ラ チッタデッラ」と同一コンセプトに基づいたカラー舗装、街路灯、ポラード・サイン施設等の一体整備やアーケード撤去が行われ、翌年3月に完成。現在のチネチッタ通り全体の一体感と安全で快適な商業空間、イメージ形成はこうして創出された。平成27年(2015年)10月には、安心・安全の観点から舗装改修を完成させた。

■毎年10月最終週末には、「カワサキハロウィンパレード」が開催される。

関連シート

- (1-23) 銀柳街・銀座街
- (2-3) ラ チッタデッラ
- (2-4) カワサキ ハロウィン

かわさき区の宝物シート

宝物No.	きょうあんじ 教安寺		
2-6			
エリア	中央地区	シーズン	通年
	川崎駅前南	日時	
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する	
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他	
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り	
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい	
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり	
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物	



所在地	川崎区小川町6-2
問い合わせ	教安寺
TEL	044-222-4946
FAX	044-222-1257
E-mail	
URL	
交通	JR川崎駅より徒歩5分



基礎情報

■天文22年(1553)に創建の浄土宗の寺。本尊は阿弥陀三尊立像。境内には、江戸中期に庶民から「生き仏様」と敬われた徳本上人の六字名号碑がある。また江戸時代に鑄造された貴重な梵鐘も残されており、寄進を行った多くの人々の名前が刻まれている。

由来・エピソード

■徳本上人は江戸時代中期の浄土宗の高僧。教安寺境内に2基の碑があり、塩浜にも大きな碑が残っている。徳本上人の教えは、浄土宗の教義である「南無阿弥陀仏」の六字名号を唱えれば極楽浄土にいけるというシンプルなもの。信者になって一日に何回唱えたかを自己申告すれば、その回数により様々な賞品(名号書)がもらえたという。中には六万回唱えた人もいたと伝えられている。

■現在川崎市内には江戸時代につくられた梵鐘は3つしか残っていない。そのうちの1つが教安寺の梵鐘で文政12年(1829)の鑄造で、大変貴重なものである。戦時中には多くの寺の梵鐘が武器の材料として集められ溶かされたが、教安寺の梵鐘は戦時中、市役所に保管されたことで難を逃れた。空襲などで電気が止まった時に備え、梵鐘をサイレンとして使おうとしたのである。

■山門前左側に建っている石灯籠は、宿内安全、天下泰平を祈願して、川崎宿の富士講の信者が天保11年(1840)に建立したもの。江戸時代後期、江戸で富士山に弥勒の浄土を求めた新興の庶民信仰の「富士講」が関東一円に広がった。富士講の有力な先達であった堀の内村出身の西川満翁が組織したタテカワ講によるものである。

補足・その他

--

関連シート

(1-12)川崎市役所本庁舎

--

かわさき区の宝物シート

宝物No.	こどろ(ことろ)ばしのおやばしら(ぎぼうし)
2-7	小土呂橋の親柱(擬宝珠)

エリア	中央地区	シーズン	通年
	川崎駅前南	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物



案内板（昭和6年、埋められる直前の頃の「新川堀」と小土呂橋）



稲毛神社境内の小土呂橋遺構

所在地	川崎区小川町14-1（新川通り歩道）
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会 東海道かわさき宿交流館
TEL	044-221-9117（かわさき歴史ガイド協会） 044-280-7321（東海道かわさき宿交流館）
FAX	044-221-9117（かわさき歴史ガイド協会） 044-280-7314（東海道かわさき宿交流館）
E-mail	
URL	
交通	JR川崎駅より徒歩5分



基礎情報

■現在の「新川通り」には、江戸のはじめに開削された「新川堀」が流れ、東海道と交わる場所には石造りの「小土呂橋」が架かり交通の要所としてにぎわっていた。特に明治末から大正にかけて臨海部には工場群が建ちはじめ、新川堀の土手の道は川崎駅と臨海部を結ぶ輸送路として重要な役割を果たすようになり、小土呂橋の周辺はたいへん活気があったといわれる。

■輸送路の機能の拡充と大恐慌による失業者対策として新川堀の下水暗渠化と道路拡張が決定したのは昭和5年(1930)のこと。翌年12月に工事は始まり、新川堀はコンクリート水路として地中化され、小土呂橋も堀とともに埋められてしまった。この時、埋められずに撤去され付近の民家に引き取られたのが花崗岩製、高さ130cmの立派な親柱(擬宝珠)であった。そして数十年を経て、その存在に注目が集まり一時的に教安寺に移された後の昭和59年(1984)、市政60周年記念にと小川町町内会によって元の場所、小土呂橋交差点脇の歩道に復活を果たした。

■翌昭和60年(1985)7月のこと、小土呂橋交差点の真ん中が陥没する事故が起こった。直ちに開始された復旧工事、周囲の路面がはがされると、下から小土呂橋の一部とみられる石柱や石板などが発見されたのである。市教育委員会によって調査・復元された「小土呂橋遺構」は現在稲毛神社境内に鎮座している。

由来・エピソード

■江戸時代、川崎宿を構成していた4つの町のひとつが小土呂町（現在の小川町）である。八丁畷の西側一帯は秣(まぐさ)沼、鷺(ばん)沼と呼ばれる大きな沼があり将軍家の鷹狩場となっていた湿地帯であった。六郷川(多摩川)の洪水時に氾濫した水を貯め、水位が下がると古川（現在の銀柳街）を通じて六郷川に排水された。しかし増水が長引くと排水は容易でなく、度々冠水し東海道の往来に支障をきたした。農業生産性も低い土地であったため、水田耕地の安定と収入の向上のため、慶安3年(1650)幕府直営により新たな排水路「新川堀用水」が開かれた。全長2.1km、幅5.4mの流れは大島村の入樋（水門）を経て江戸湾へと注ぎ、「悪水」を海に直接排出することが可能となった。

■当初の小土呂橋は木の橋だったが、享保11年(1726)に田中休愚が石橋に架け替え、3年後にはベトナムから幕府に献上される象が渡った。寛保2年(1742)の洪水によって大破したが、翌年に幕府御普請役水谷郷右衛門が新たな石橋を再興した。以来この石橋が明治・大正を通じ190年間にもわたり人々の往来に供されてきたが、昭和6年(1931)からの工事によって親柱など上部の構造物を残しあとは新川堀もとも埋められた。そして50年が経過し、親柱が小土呂橋交差点に復活したその翌年、埋められた小土呂橋の一部が陥没した道路の下から発掘されたのである。

■石柱に刻まれた銘文（設置年代・設置者・石工の名前など）から、寛保3年築造の石橋であることが明らかとなった。小土呂橋は市内に残る少ない近世石造橋の中で最も年代が古く、幹線街道に幕府御普請所によって架橋されたことから当時の事情や構造等を解くことができる諸々の資料も残されており、史料価値の高いものであるという。なお、この花崗岩製の親柱(擬宝珠)は大正時代に高欄などととも新たに付けられたものとみられている。

補足・その他

■新川堀には小土呂橋の他にも、新川橋、さつき橋などの橋が架かり、今でも交差点やバス停に名前を残している。新川橋のあった第一京浜の交差点名は「南町交番前」であったが、由緒ある新川橋の名を残そうと平成17年9月、川崎区連合町内会、川崎今昔会、川崎中央観光協会、NPO法人かわさき歴史ガイド協会、東海道川崎宿2023など多くの団体が連名で国交省あて要望書を提出した。その結果、平成18年2月に正式に「新川橋」と地点名標示板の名称が変更された。

関連シート

- (1-1)川崎宿
- (32-2)田中休愚
- (1-23)銀柳街・銀座街
- (1-14)稲毛神社

かわさき区の宝物シート

宝物No.
3-1

みょうおんじ・せんでんにくんどくひ 妙遠寺・泉田二君功德碑



エリア	中央地区	シーズン	通年
	宮前・貝塚	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input checked="" type="checkbox"/> 人物



所在地	川崎区宮前町6-5
問い合わせ	妙遠寺
TEL	044-222-7162
FAX	044-211-7164
E-mail	kc220395-5831@tbr.t-com.ne.jp
URL	
交通	JR川崎駅より徒歩10分



基礎情報

■正式名称は日蓮宗長継山妙遠寺。本尊は髻曼荼羅（ひげまんだら）。小泉次大夫の開基で日純上人の創建。第二次大戦後、区画整理のため昭和27年(1952)に砂子から現在地に移転した。
 ■境内には、二ヶ領（稲毛・川崎）用水を完成させた小泉次大夫と川崎中興の祖といわれる田中休愚の偉業を讃える「泉田二君功德碑」や日純上人の供養塔、次大夫夫妻の逆修塔、次大夫の右腕として活躍した石川吉久の墓がある。

由来・エピソード

■寺を開基した小泉次大夫は、今から約400年前に徳川家康の命によって多摩川の治水奉行として、多摩川両岸に「二ヶ領用水」「六郷用水」の2つの農業用水路を開削した人物。度重なる大洪水の影響で荒廃する沿川の村々の惨状に胸を痛めた次大夫は、家康に農業用水の開削と新田開発を進言した。工事は慶長2年(1597)から始まり、現在の中原区に工事の指揮監督の拠点となる「小泉陣屋（後に小杉陣屋）」が設けられた。その際、工事の陣頭指揮をとる次大夫が、用水開削成就を祈念し、陣屋の裏手にあった廃寺を再興して名付けた「長継山妙泉寺」が妙遠寺の前身である。そして、安房国（千葉県）の日蓮宗本山・妙本寺から住職として招かれた日純上人が、川崎宿の中心地・砂子に妙泉寺の本堂を移し、新たに妙遠寺を創建した。参道のある大きな寺で、元和6年(1620)に代官職を譲った次大夫は、妙遠寺にて隠居生活を送った後、元和9年(1623)、川崎宿が宿駅制定されたその年の12月、85歳で生涯を終えた。逆修塔とは「逆（あらかじ）め戒名をつける・冥福を修める」という意味で、次大夫夫妻の生前の元和5年(1619)に建立された墓である。
 ■「泉田二君功德碑」は、小泉次大夫、そして川崎宿の財政を救うとともに二ヶ領用水の本格的な大改修や多摩川の築堤を成し遂げた田中休愚の二人の偉業を讃え、苗字から1字ずつをとって、明治22年(1889)に建立された。宮内省の元役人・池田忠政が荒れ果てた次大夫の墓石を見て「水恩の碑」建立の発起人となった。碑の額は当時の内閣総理大臣・黒田清隆の筆によるものである。また、二ヶ領・六郷用水開削工事の際に、次大夫が故郷の駿河国富士郡小泉郷（現・富士宮市）から呼び寄せ、事業完遂に大きく貢献した土木技術者・石川駿河守吉久夫妻の墓もおかれている。

補足・その他

■沿川60箇村の耕地に用水を供給し、300年以上の長きにわたり農業・生活用水として人々を潤した二ヶ領用水は、上河原堰・宿河原堰（多摩区）の取水口から多摩川の水を取り込み、久地円筒分水樋（高津区）で4本の支堀に分かれていた。その支堀の一つ、川崎堀が鹿島田（幸区）で分岐したのが大師堀と町田堀（天飛川）で、それぞれ大師河原方面、渡田方面の水田を潤し、さらに近代以降の沿岸部の工業地帯の発展を支えた、現在の川崎区にとってかけがえのない命の水であった。二堀とも現在は全く姿を消してしまっているが、大師堀は、若宮八幡宮境内の九橋の一つの欄干や平間寺の鶴の池、大師公園のせせらぎ水路、大藤橋（大師堀から分流する観音川に架かっていた橋）の親柱などにその名残をとどめている。

関連シート

- (1-1)川崎宿
- (10-3)若宮八幡宮・若宮郷土資料室
- (32-1)小泉次大夫
- (32-2)田中休愚

かわさき区の宝物シート

宝物No.	だいしまき 大師巻		
3-2			
エリア	中央地区	シーズン	通年
	宮前・貝塚	日時	
目的	<input type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する	
	<input checked="" type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他	
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り	
	<input checked="" type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい	
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり	
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物	



写真提供：(株)堂本製菓

所在地	本社・販売店の所在地等は下記参照
問い合わせ	堂本製菓株式会社
TEL	044-222-2454
FAX	044-222-2716
E-mail	info@doumoto.co.jp
URL	http://www.doumoto.co.jp/ (堂本製菓株式会社HP)
交通	JR川崎駅・京急川崎駅より徒歩20分 またはバス8分「南町」より3分



基礎情報

■大師巻は880余年前開創という悠久の歴史を持つ、川崎大師にちなんだ米菓。油で揚げた煎餅に秘伝のタレをしみ込ませた懐かしい甘辛醤油味とサッパリ塩味の2種類。弘法大師様に見立て、揚げた煎餅を【御大師様】海苔が【袈裟(ケサ)】を纏っている似姿で職人が一つ一つ手巻きで造っている。
■生地は米、海苔共に吟味した国産を使用し、煎餅のサクサク食感と、贅沢過ぎるパリパリの海苔がよく合う。今でも海苔が割れないように、巻く工程・袋詰め工程等手作業で造られている、老舗職人の味どころが生きた逸品である。

由来・エピソード

■大師巻を開発した堂本製菓は明治42年(1909)、現在の東京都江東区で創業し、その後昭和4年(1929)に川崎に移転後、80年以上にわたり川崎の町とともに歩んできた老舗である。
■大師巻 考案当初、大師地域では、かつて品質の良い海苔が採れていた。しかし、海が埋め立てられ、海苔づくりの伝統は途絶えたが、この地で盛んに海苔が作られていた事を忘れられないよう、海苔をふんだんに使った商品に辿りついた。
■大師巻 考案者の三代目堂本清一とその妻歌子がとても仲が睦まじかった為、いつまでも一緒に寄り添えるよう、包装紙・紙袋・ロゴの【川崎】【堂本】の文字は妻歌子の書。清一の商品を今でも優しく包み込む。
■包装紙全体にあしらわれた三本の線は、ここ川崎の方々を守り育てて頂いた感謝の想いから川崎の【川】の字をモチーフに作られた。
■《受賞歴》
・平成17年(2005)川崎市の審査にて『かわさき名産品』に認定。
・平成21年(2009)川崎商工会議所主催で川崎市民の投票『私のイチ押し地元コンクール』優秀賞受賞。
・平成25年(2013)第26回全国菓子大博覧会にて『全国博会長賞』受賞
・平成26年(2014)神奈川銘菓共励会『神奈川県銘菓指定』に認定

補足・その他

■堂本製菓の工場と販売店は以下のとおり。
～直営店～
・本店・工場直売所：川崎区元木1-2-4 TEL044-222-2454
(工場直売所限定 毎月第2・第4土曜日《堂本煎餅1割引》)
・堂本 アトレ川崎店(地下1階)
・堂本 川崎アゼリア店(川崎銘菓内)
～取扱い店様～
・京急百貨店上大岡駅(地下1階 諸国銘菓内)
・武蔵小杉東急フードショースライス(2階 諸国銘菓内)

関連シート

(1-24) 銀柳街・銀座街
(1-25) 銀柳街アーケード
(19-7) 東扇島東公園

かわさき区の宝物シート

宝物No.	ばしょうぼけつとぱーく 芭蕉ポケットパーク
4-1	

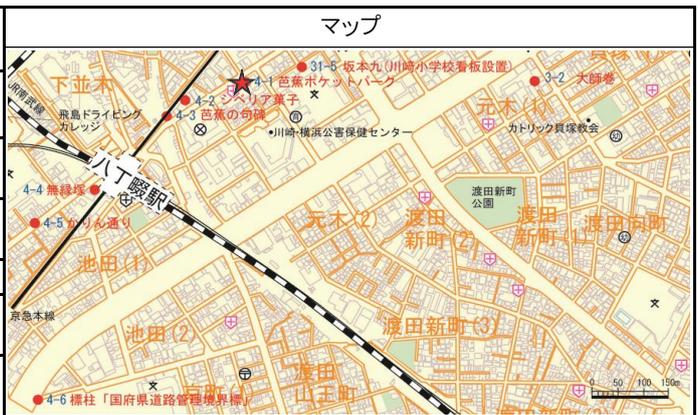
エリア	中央地区	シーズン	通年
	八丁畷	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input checked="" type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input checked="" type="checkbox"/> 人物



所在地	川崎区日進町24-15
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会 川崎市住宅供給公社 事業部管理営業課
TEL	044-221-9117 (かわさき歴史ガイド協会) 044-244-7577 (川崎市住宅供給公社)
FAX	044-221-9117 (かわさき歴史ガイド協会) 044-244-7509 (川崎市住宅供給公社)
E-mail	
URL	http://www.kawasaki-jk.or.jp/index.php (川崎市住宅供給公社HP)
交通	JR川崎駅より徒歩12分またはJR・京急八丁畷駅より徒歩3分



基礎情報

- 平成17年(2005)3月、日進町の旧川崎宿の外れにあたる場所に松尾芭蕉をしのぶポケットパークが完成した。
- 付近は川崎宿の「京口」(京都側の入り口)と呼ばれ、元禄7年(1694)に芭蕉が弟子達と別れを惜しみ句を詠み交わした所とされている。その年の秋に芭蕉は大阪で帰らぬ人となった。弟子たちにとっては本当に最後の別れとなった場所。石盤にはこの時の7人の弟子たちの句が彫られている。

由来・エピソード

- 川崎市住宅供給公社により建てられた高齢者向け優良賃貸住宅「ビバース日進町」の旧東海道に面した1階部分、約30㎡の敷地に芭蕉ポケットパークはつくられた。弟子達との別れの時に芭蕉が詠んだ『麦の穂を たよりにつかむ 別れかな』が刻まれる「芭蕉の句碑」のある八丁畷駅前もすぐ近く。
- 芭蕉にとって弟子達は江戸での生活の支援者であり、連句の共同制作者でもある大切な存在だった。これまであまり脚光を浴びることのなかった芭蕉の門弟にスポットを当てた施設である。ベンチ前の石盤には7人の門弟たちの句が刻まれ、また裏側が自販機コーナーになっている半円形の柱には22人の門弟たちの句が紹介されている。
- 芭蕉の句からイメージされる麦畑に見立てた植栽や樹木の選定など当時に想いを馳せるための様々な演出が施されている。「東海道川崎宿2023」の会合において設計者と市民がデザインの詳細について意見を交換し、石盤に刻む句の文字については市民が要望した毛筆体が採用されるなど市民参加によって実現した施設である。

補足・その他

- 「ビバース日進町」は建物内に高齢者向け優良賃貸住宅(5~11階)と高齢者療養を主とする馬嶋病院と在宅ケアセンター(1~4階)が同居した施設。住居部総戸数は55戸(1LDKタイプ他)。小川町から移転した馬嶋病院の療養病床85床が備わっている。ポケットパークの維持管理は川崎市住宅供給公社が担っている。
- すぐそばにある平成16年(2004)年にリニューアルされた日進町町内会館は「麦の郷」と名づけられ、会館の前には江戸時代の川崎宿の姿が描かれた東海道分間延絵図の銅版などが設置されている。銅版は昭和40年代に日進町町内会婦人会が市教育委員会の協力を得て制作されたもので、会館の建替えの際に倉庫内から発見されたという。

関連シート

- (1-1)川崎宿
- (4-3)芭蕉の句碑

かわさき区の宝物シート

宝物No.	しべりあがし シベリア菓子		
4-2			
エリア	中央地区	シーズン	通年
	八丁囃	日時	
目的	<input type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input checked="" type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他		
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input checked="" type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物		



所在地	
問い合わせ	
TEL	
FAX	
E-mail	
URL	
交通	



※このシートの掲載内容は平成28年(2016)3月末時点の情報です。

基礎情報

■シベリアとは小豆の餡子(あんこ)をカステラで挟んだ「和洋折衷」のお菓子。乃木將軍のシベリア遠征に由来するという。昔懐かしい味わいがあり、夏は冷たくしても美味しく食べることができる。かつてはパン屋では普通につくられていた全国的にポピュラーなお菓子だったが、手間がかかるため今ではつくる店は少なくなったという。

■日進町の「ベーカリーValeur(バルール)」創業者の今泉三郎さんは、昔から変わらない製法でシベリアをつくっているが、今の時代に合わせて甘さは控えめにしている。「懐かしい」「珍しい」という声も多く、中には里帰りの土産物としてまとめて買っていくお客さんもいるという。

由来・エピソード

■シベリアという名称の由来は「断面の模様がシベリアの凍土に似ている」「カステラがシベリアのツンドラか黄土を、羊羹はシベリア鉄道を表す」など諸説あるようだが、明治後期の日露戦争時、乃木將軍がシベリアの戦場へ出征する際に、上野・永藤パン(現在は閉店)の職人が甘党だった將軍に「何かを持たせたい」と思案した末、カステラに羊羹をサンドしたものを考案、シベリアの地で食した乃木將軍はとても気に入ったと伝えられる。餡子が使われているのでシベリア地方の発祥ではないことは明らかなようである。昭和のはじめ頃にブームになり「子供達が食べたいお菓子No.1」であったともいわれ、以降ずっとこの菓子は『シベリア』という名前でも今日まで製造されている。

■創業25年になるValeurは製造・小売一筋で商品は全て自家製。「Valeur」とはフランス語で「あたたかい」の意味。機械窯の商品名でもあるが語感が気に入って知人に相談し命名したという。今泉さんは鶴見市場にあった老舗・木村屋で修行し、昭和30年代終わり頃に鶴見市場で独立。現在の八丁囃に移転して20余年が経つという。シベリアは修業時代に先輩職人がつくっていたのを見ながら覚えたという。

■材料は寒天と砂糖、餡子にカステラ。寒天と砂糖を煮詰め、餡子を加え強火で15~20分かき混ぜる。木型を用いカステラで両側をはさんだ状態で一晩常温で置いておく。翌朝カットして24食分が出来上がる。冬場には毎日つくるが、夏はあまり日持ちしないため週2回程度つくる。カスタードクリームや白あんを用いた時期もあったが、やはりこしあんを用いるのが一番だという。

補足・その他

■夜中の2時から仕込みを始め朝6時に開店する(閉店は18:30)。早朝勤務のお客さんなどが多く足を運んでくれるという。日曜祝日は定休。
 ■シベリアは防腐剤等を一切使用していないため、賞味期限は常温で2日間程度(あとは要冷蔵)。

関連シート



かわさき区の宝物シート

宝物No.	ばしょうのくひ		
4-3	芭蕉の句碑		
エリア	中央地区	シーズン	通年
	八丁囃	日時	
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他		
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 人物		



所在地	川崎区日進町11-9
問い合わせ	川崎市教育委員会生涯学習部文化財課
TEL	044-200-3305
FAX	044-200-3756
E-mail	
URL	http://www.city.kawasaki.jp/880/page/0000000039.html (川崎市内文化財案内/芭蕉の句碑)
交通	JR・京急八丁囃駅より徒歩1分



基礎情報

- 『麦の穂を たよりにつかむ 別れかな』 元禄7年(1694)5月、故郷伊賀に向かった松尾芭蕉が、見送りにきた弟子たちと川崎宿のはずれ(京口)近くの茶屋で別れを惜しみ詠んだ句である。俳聖・松尾芭蕉の足跡をしるしたこの句碑は、文政13年(1830)俳人一種によって建立された。
- 川崎市内には6基(他に稲毛神社、川崎大師平間寺、高津区の宗隆寺、宮前区の影向寺、麻生区の高石神社)、県内では60基を超える数多くの芭蕉の句碑があるが実際に句を詠んだ地に建てられた碑は少なく大変貴重なものとされる。江戸時代の川崎宿を偲ばせる最も記念すべき遺産の一つである。

由来・エピソード

- 松尾芭蕉は、正保元年(1644)伊賀上野(三重県)の生まれ。江戸に下り、深川の芭蕉庵に住んでいた。元禄7年(1694)、芭蕉が江戸から故郷へと旅立つ際に、弟子たちは芭蕉とともに六郷川(多摩川)を渡り、川崎宿に入った。なかなか別れを告げられない一行はついに京口(京都側の宿場の入り口)までさしかかってしまった。そして腰掛茶屋で別れを惜しみながら句を詠み合ったとされる。
- 弟子たちの詠んだ句に対して芭蕉が返したのがこの句である。芭蕉はこの年の秋に大阪で帰らぬ人となり、弟子たちにとってはこの場所が本当に最後の別れとなったのである。句碑は元々京口付近に建てられたが数度の移動を経て現在の場所に落ち着いたという。
- 句碑の周囲には色とりどりの花々が植えられ季節ごとに通行人の目を楽しませている。日頃の維持管理は日進町町内会「芭蕉の碑保存会」によって毎月10日・20日・30日と定期的な清掃や植栽の手入れなどが行われている。往時の風情を感じてもらおうと毎年「麦」の種播きも熱心に続けられている。
- 平成16年(2004)にリニューアルされた日進町町内会館は芭蕉の句碑にちなみ「麦の郷」と名づけられ、会館の前には江戸時代の川崎宿の姿が描かれた「東海道分間延絵図」の銅版が設置されている。銅版は昭和40年代に日進町町内会婦人会が市教育委員会の協力を得て作製したもので、会館の建替えの際に倉庫内から発見されたという。
- 平成27年(2015)11月、東海道川崎宿2023が主催するスタンプラリーの開催に併せて、地域の町内会及び芭蕉句碑保存会により、投句箱が設置された。

補足・その他

- 京口付近には平成17年(2005)に「芭蕉ポケットパーク」が整備され、弟子達の詠んだ句が記された石盤が置かれている。
- 稲毛神社の参道脇にも平成6年(1994)10月、芭蕉没後300年を記念した芭蕉の句碑が建てられている。

関連シート

- (1-1)川崎宿
- (1-14)稲毛神社
- (4-1)芭蕉ポケットパーク

かわさき区の宝物シート

宝物No.	むえんづか 無縁塚		
4-4			
エリア	中央地区	シーズン	通年
	八丁畷	日時	
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他		
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代的文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物		



供養祭の様子

所在地	川崎区下並木（京急八丁畷駅敷地内）
問い合わせ	
TEL	
FAX	
E-mail	
URL	
交通	京急八丁畷駅敷地内



基礎情報

■川崎宿を出て横浜方面に向かう道を「八丁畷」と呼んだ。この付近では江戸時代以降多くの人骨が発見されており、戦後の道路工事などでも度々掘り出され10数体にも及んだという。東京大学による鑑定の結果から江戸時代頃の特徴を備えた人骨であることが判明し、当時の震災、大火、洪水、飢饉や疫病などの災害で亡くなった身元不明の人々を宿場のはずれの八丁畷の並木の下に埋葬したのではないかとされている。このような無縁仏のために昭和9年(1934)地元と川崎市によって供養塔が建てられた。

■現在では地元の下並木町内会が日常の維持・管理を行っている。毎年5月の第4日曜日には町内会でご供養を行い、近隣の商店主や町会長、京急八丁畷駅長など50名ほどが参列する。読経の後、町内会館において追会が開かれる。

■平成25年(2013年)、川崎西部まちづくりクラブが、「無縁塚の魅力向上計画」を提案。地元、下並木町内会長を代表に、「無縁塚整備の会」が発足し、整備に着手。周囲の柵を外して地盤の石敷きを替え、背後に竹垣などを設置し、川崎市教育委員会が解説板をリニューアル。平成28年(2016年)3月、再整備工事が完了した。整備後、無縁塚の管理は「無縁塚保存の会」に引き継がれる。

由来・エピソード

■江戸時代、東海道を京都に向かう際、川崎宿を抜けると、隣の市場村（現鶴見区市場上町）まで田んぼの中の真っ直ぐな道（畷）が八丁（約870m）続いていたことが八丁畷の由来であるという。街道の両側には松、杉、榎が植えられ当時は「八丁縄手並木」と呼ばれていた。現在は下並木町内会の要望をうけて川崎市が植樹したかりんの並木道になっている。

補足・その他

関連シート

- (1-1)川崎宿
- (4-5)かりん通り

かわさき区の宝物シート

宝物No.	かりんどおり
4-5	かりん通り

エリア	中央地区	シーズン	春・秋
	八丁畷	日時	

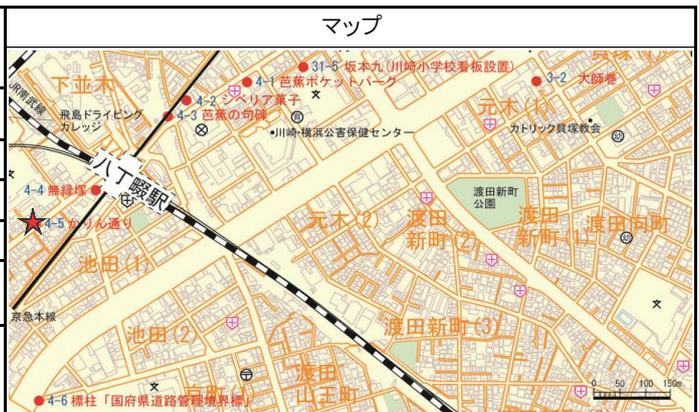
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input checked="" type="checkbox"/> にぎわい
	<input checked="" type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



写真提供：下並木町内会

所在地	川崎区下並木
問い合わせ	
TEL	
FAX	
E-mail	
URL	
交通	JR・京急八丁畷駅よりすぐ



基礎情報

- 京急八丁畷駅から横浜方面に向かう旧東海道のかりんの並木道。江戸時代は松や杉、榎が植えられた立派な並木道で町名の由来にもなった。
- 現在の「かりん並木」は地元、下並木町内会の要望を受けて川崎市が植樹したもの。春に白い花が咲き、秋にはたくさんの実をつける。毎年11月の原則第2日曜日には町内会でかりんの実を収穫するかりん祭りが開催され、来場者にはかりんの実が配られ、かりん酒づくりの体験もできる。町内会でつくったかりん酒が実費で販売される他、4～5店の模擬店が並び、にぎわいをみせている。

由来・エピソード

- 江戸時代、東海道を京都に向かう際、川崎宿を抜けると、隣の市場村（現鶴見区市場上町）まで田んぼの中の真っ直ぐな道（畷）が八丁（約870m）続いていたことが八丁畷の由来であるという。街道の両側には松、杉、榎が植えられ当時は「八丁縄手並木」と呼ばれていた。人家は少なかったという。大正時代に「下並木」「上並木」の町名がつけられたが、昭和39年(1964)の区画整理によって上並木は「日進町」と改称された。

補足・その他

関連シート

- (1-1)川崎宿
- (4-4)無縁塚

かわさき区の宝物シート

宝物No.
4-6

ひょうちゅう「こくふうけんどうかんりきょうかいひょう」 標柱「国府県道路管理境界標」

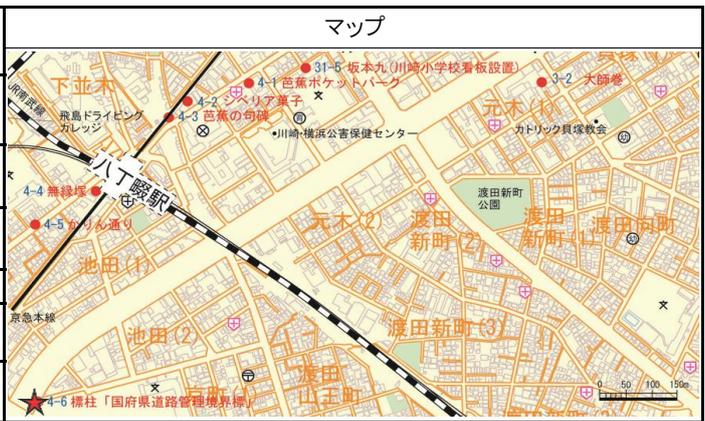


エリア	中央地区	シーズン	通年
	八丁騒	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input checked="" type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物

所在地	川崎区池田2丁目
問い合わせ	国土交通省横浜国道事務所 管理第一課 川崎区役所地域振興課 まちづくり担当
TEL	045-316-3538 (横浜国道事務所) 044-201-3136 (川崎区役所)
FAX	045-316-1497 (横浜国道事務所) 044-201-3209 (川崎区役所)
E-mail	
URL	
交通	JR川崎駅よりバス「池田1丁目」下車徒歩2分、JR・京急八丁騒駅より徒歩3分



基礎情報

■大正時代に建てられた鉄筋コンクリート製の上部が四角錐の角柱。京浜国道（現在の第一京浜・国道15号）は大正7年(1918)に着工、7年後の大正14年(1925)に完成した。その当時の道路管理者である横浜市と神奈川県との管理境界を表す標柱である。同年には旧六郷橋も完成し、第一京浜は川崎の近代化とともに歩んできた道といえる。

由来・エピソード

■東京～横浜間の現在の国道15号は開通当時は国道1号と呼ばれ、昭和9年(1934)に着工された新京浜国道（現・第二京浜国道）が当初の第一京浜国道であった。昭和27年(1952)の新道路法に基づく路線指定で、この第一京浜を第二京浜・国道1号に改め、旧1号の東京～横浜間を一級国道15号（東京都中央区～神奈川県横浜市）と改称されたものである。

補足・その他

関連シート

(1-17) 旧六郷橋親柱(縮毛公園)

かわさき区の宝物シート

宝物No.
5-1

ろくごうのわたし・めいじてんのうのひ 六郷の渡し・明治天皇の碑

エリア	中央地区	シーズン	通年
	旭港	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input checked="" type="checkbox"/> 人物



出典：「2001大川崎宿祭り記念誌」

所在地	川崎区旭町1-3
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会 東海道かわさき宿交流館
TEL	044-221-9117 (かわさき歴史ガイド協会) 044-280-7321 (東海道かわさき宿交流館)
FAX	044-221-9117 (かわさき歴史ガイド協会) 044-280-7314 (東海道かわさき宿交流館)
E-mail	
URL	http://www.city.kawasaki.jp/61/61kusei/home/papercraft/takaramonopapercraft.htm (川崎区役所HP/かわさきの宝物・ペーパークラフト)
交通	京急大師線港町駅より徒歩10分



基礎情報

- 江戸時代、東海道の往来のためには六郷の渡しは大切な要であり、幕府からの助成金によって常時10数隻の舟で旅人や荷馬を渡した。明治元年(1868)の明治天皇の渡御の際には23隻による舟橋が架けられた。現在新六郷橋には欄干の渡船のモニュメントとともに渡船跡の碑と明治天皇六郷渡御碑が建てられている。
- 平成13年(2001)5月に開催された宿駅制定四百年記念「大川崎宿祭り」では、多摩川漁協、六郷マリンクラブ、市消防局の協力のもと六郷の渡しを再現するイベントが催され、多くの家族連れでにぎわった。

由来・エピソード

- 慶長5年(1600)、徳川家康は西国との往来のため「六郷大橋」を建造した。ところが洪水の度に修復や架け直しを繰り返し、やがて貞享5年(1688)7月の大洪水による大橋の流失をきっかけに幕府は架橋をあきらめた。その後明治初めの左内橋の架橋に至るまでの約190年もの間、渡し船による渡河が続くことになった。
- 当初、渡し船は江戸の町人が請け負っていたが、宝永6年(1709)、田中休愚の働きで川崎宿が請け負うことになり、その収入が川崎宿の財政を大きく支えた。
- 享保14年(1729)5月、ベトナムから幕府への献上物として渡ってきた雄の白象が川崎宿へとやってきた。象は長崎から陸路をたどり京都では天皇に拝謁、東海道を15名の従者とともに歩いてきたという。象通行にかかわる「御触書」が出され宿場はあふれる見物客とともに大きな喧噪につつまれた。予定より9日遅れで川崎宿に到着した白象は、宿内に新築された象部屋に迎えられ一泊した。六郷の渡しには近村から集められた30隻の舟と1日280人の人足によって6日間で仮設の舟橋が架けられたそうであるが実際に象が渡った記録は残っておらず、舟橋で象が渡るのは困難と船頭らが判断し、3隻の大きな荷足船を繋いで上に小屋をつくって渡したという説もある。

補足・その他

- 六郷の渡し他、かつて川崎区内の多摩川には大師河原と羽田をつなぐ渡し3箇所あった。一番下流の『羽田の渡し』は、ふだんは農作業のための「作場渡し」であったが、江戸時代後半に大師詣が盛んになると江戸方面からの参詣者は川崎宿を経由せずに羽田から直接川崎大師そばに渡った。近道で便利だったため人気の参詣ルートとなった。困ったのは客足が減った六郷の渡船場や川崎宿で商いをする人々であり「川崎宿が困窮する」と訴えられたほどという。
- 明治29年(1896)に農作業のために開設されたのが『大師の渡し』で、参詣客のために羽田の穴守稲荷と川崎大師を30分で渡す早舟も運航された。大正になりさらに上流にも渡しが出来て、海老取川近くまで早舟が出されたという。

関連シート

- (1-17)旧六郷橋親柱(稻毛公園)
- (14-1)多摩川(河口干潟・桜並木)
- (32-2)田中休愚

かわさき区の宝物シート

宝物No.	ちょうじゅうろうなしのふるさと 長十郎梨のふるさと
5-2	

エリア	中央地区	シーズン	通年
	旭港	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input checked="" type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input checked="" type="checkbox"/> 人物



昭和25年頃の
長十郎梨園



若宮八幡宮
境内に移植
された長十
郎梨の苗木



写真提供：倉形泰造氏

所在地	川崎区旭町1-3
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会
TEL	044-221-9117
FAX	044-221-9117
E-mail	
URL	
交通	京急大師線港町駅より徒歩10分



基礎情報

- 病害に強く、甘味があり、収穫も多いことで有名な「長十郎梨」。この梨の生みの親、当麻辰次郎の故郷、大師河原村出来野（現在の日ノ出町）が発祥の地である。明治26年(1893)、多摩川の河口近くで辰次郎が発見したと伝えられる。評判が良く大正初期には全国の生産量の8割を占めた。
- 現在、区内では長十郎梨はつくられていない。六郷橋のもとには案内板が置かれ、また、川崎大師境内には大正8年(1919)に辰次郎の功績を讃え建立された記念碑「種梨遺功碑」が残っている。

由来・エピソード

- かつて多摩川下流域の両岸、川崎区・大田区の広大な河川敷一帯は梨の一大名産地だった。大師地域での梨づくりは江戸時代に始まったとされ、明治時代に入りますます盛んになった。明治26年(1893)に現・日ノ出町の当麻辰次郎の梨園で発見されたと伝えられる新種は、同家の屋号から「長十郎梨」と名付けられた。長十郎梨は多摩川に沿って北上、大正時代には関東一になるほどの発展をとげ、「多摩川梨」というブランド名も生まれた。やがて全国に広がると、一時は全国の梨栽培面積の60%にまで広がった。一方の川崎区ではその後工業化の進行に伴って次第に梨園は姿を消していった。
- 発祥の地川崎区に長十郎梨を復活させようと、現在の生産地多摩区から川崎区まで苗木を大八車で運んで植樹するイベント『長十郎の里帰り』が平成17年(2005)1月に開催された。多摩区在住の俳優中本賢氏らが中心となった「長十郎の里帰り実行委員会」（多摩川クラブ、砂子の里資料館、若宮八幡宮、稲生ロータリークラブ、川崎市理容組合、慈酒乃会など）が主催。多摩区菅の農家から提供された樹齢3年目の苗木を大八車に乗せ、二ヶ領せせらぎ館（多摩区宿河原）から、幸スポーツセンター、多摩川河川敷を経て、川崎区内に入り若宮八幡宮に到着。当麻辰次郎の子孫や新成人、市長が参加し、盛大に植樹式が行われた。長十郎梨の木は、若宮八幡宮で大切に維持管理されている。

補足・その他

- 当麻辰次郎の墓は医王寺にある。
- 明治中期の俳人正岡子規は川崎を訪れた際、『行く秋の梨ならべたる在所かな』『川崎や 畑は梨の 帰り花』『梨くうは 大師戻りの人ならじ』『川崎や 小店々々 梨の山』『川崎を 汽車で通るや 梨の花』『徒歩で行く 大師詣でや 梨の花』などの句を詠んでいる。
- 川崎河港水門の頭部にあるオブジェは、往時の川崎の名産物、梨やブドウ、桃などがモチーフにされている。

関連シート

- (5-5)川崎河港水門
- (10-3)若宮八幡宮・若宮郷土資料室
- (10-17)川崎大師平間寺
- (15-2)出来野厳島神社

かわさき区の宝物シート

宝物No.	とくせんじ 徳泉寺		
5-3			
エリア	中央地区	シーズン	通年
	旭港	日時	
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他		
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物		



所在地	川崎区旭町1-14-13
問い合わせ	徳泉寺
TEL	044-222-2921
FAX	044-222-2908
E-mail	tokusenji@sunny.ocn.ne.jp
URL	
交通	京急大師線港町駅よりすぐ



基礎情報

- 浄土真宗の寺。正式名称は真宗大谷派羽田山徳泉寺。開山は不詳。本尊は阿弥陀如来で、戦時中、当時の住職が本尊だけを肌身離さずにいたことから、唯一戦禍をまぬがれたご尊体であるという。
- 境内には初代川崎市長石井泰助氏の墓石や、明治時代の六郷川の洪水時、救助活動中に殉職した巡査と天然痘の発生にともない殉職した巡査の二人の警官の供養碑が並んで建っている。

由来・エピソード

- かつては多摩川対岸の羽田にあったが、寛永4年(1627)の多摩川の洪水で水没し、川崎宿の江戸口近くに移ったと伝えられる。江戸時代には東海道に面した場所にあったため、門前はたいへんな賑わいがあったといわれる。大正13年(1924)に旧六郷橋の架橋工事のため現在の地に移転したとされるが、一説には酒豪で豪放磊落な当時の住職が借金を重ねた末、土地を手放さざるをえなくなり、一帯の大地主であった石井家の好意によって現在の場所の寄進を受けたという逸話も残っている。
- 明治11年(1878)9月の多摩川の洪水時、住民の救助活動中に命を落とした福田傳四郎巡査、また明治15年(1882)6月の伝染病(天然痘)の発生時、患者救済の活動中に殉職した安井格禪巡査の2基の供養碑が本堂前に建てられている。
- 石井泰助氏は明治30年(1897)に就任した川崎町長時代、多摩川の沿岸に横浜製糖(後の明治製糖、現・大日本明治製糖)、東京電気(現・東芝)、味の素などの工場招致に力を注ぎ、また川崎に初めて上水道を敷設するなど今日の川崎市の基盤を造り上げた功労者である。大正13年(1924)に川崎町・大師町・御幸村が合併して誕生した川崎市の初代市長となった。稲毛公園には功績を称える顕彰碑が建てられている。

補足・その他

関連シート

- (1-1)川崎宿
- (1-2)六郷橋駅跡
- (14-1)多摩川(河口干潟・桜並木)

かわさき区の宝物シート

宝物No.	けいきゅうだいしせんみなとちようえき 京急大師線 港町駅
5-4	

エリア	中央地区	シーズン	通年
	旭港	日時	

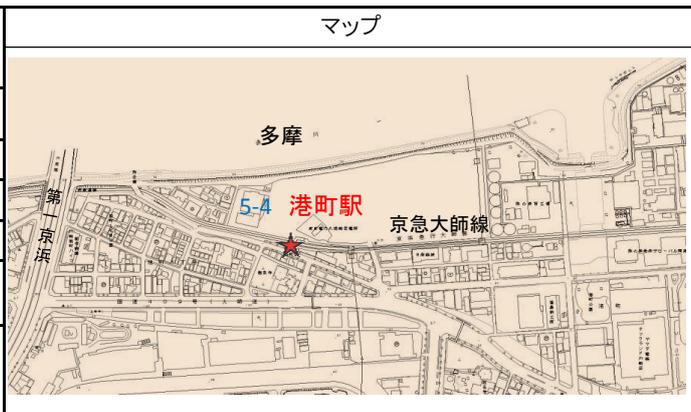
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input checked="" type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



写真提供：京浜急行電鉄株式会社

所在地	川崎区港町1-1
問い合わせ	京急ご案内センター
TEL	03-5789-8686または045-441-0999
FAX	
E-mail	
URL	http://www.keikyu.co.jp/information/magazine/index.html (京急電鉄HP/京急沿線マガジン)
交通	京急大師線川崎駅より1駅目



※川崎市の承認を得て同市発行の都市計画基本図を複製したものです。
承認番号（川崎市指令ま計第159号）

基礎情報

■かつての京急大師線港町駅は、現在の場所から300mほど北西側の六郷川河畔に設置されていた大師電気鉄道「発電所前駅」がその始まりとされており、その後の鉄道経路の変更に伴った駅の移設や幾度かの名前の変更を経て、現在に至っている。

由来・エピソード

- 明治32年(1899)の大師電気鉄道が開通した際に、六郷橋付近に設置された駅は、六郷川河畔に電力供給のために建設した久根崎火力発電所があったことから、「発電所前駅」と名付けられた。発電所では発電事業のほか、余剰電力の供給事業も行っており、そこに鉄道駅が設置されたことから、六郷川沿川周辺には次第に工場が進出してくるようになり、京浜工業地帯の基礎が形づくられていった。
- 駅舎はその後「久根崎駅」と改称されたのち、昭和3年(1928)の六郷橋～川崎大師駅の経路変更の際に廃止された。その後、昭和4年(1929)から2年間限定の臨時停留場として「河川事務所前停留場」が開設された。昭和7年(1932)の「コロムビア前駅」としての正式開業後、昭和18年(1943)に一旦営業は休止されたが、翌年に「港町駅」と改称して再開された。戦後は長らく無人駅であったが、昭和31年(1956)10月、現在地に移設され、駅務員配置駅となった。移設された港町駅の周辺は江戸中期まで多摩川の河岸から果物等を出荷する「津出し」の小港として栄えた土地である。
- 昭和52年(1977)4月、大師線の大型化を図るために、ホームの延伸と人道跨線橋の新設工事が完成したことにより、構内踏切道は廃止された。
- なお、昭和32年(1957)に発売された美空ひばりの『港町十三番地』（日本コロムビア）は、具体的な地名は歌詞に出てこないが、今の港町5丁目付近を歌った曲といわれている。当時の日本コロムビアの所在地は「九番地」だったが、ゴロが良いことから「十三番地」にしたとの説も残る。
- 平成25(2013)年には、京急電鉄が港町駅に『港町十三番地』の歌碑を建立し、ひばりの等身大の姿や実寸の手形とサイン、発売当時のレコードジャケットも描かれ、ボタンを押すと本楽曲を歌唱しているひばりの歌声が流れるようになっている。

補足・その他



関連シート

- (1-2)六郷橋駅跡
- (5-5)川崎河港水門
- (5-9)京浜急行大師線 鈴木町駅
- (10-1)京急発祥の地碑(川崎大師駅)
- (31-1)コロムビア・ネオン塔
- (30-1)ニッポノホン

かわさき区の宝物シート

宝物No.	かわさきかこうすいもん 川崎河港水門			  
5-5				
エリア	中央地区 旭港	シーズン 日時	通年	
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他			
宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 人物			
所在地	川崎区港町66番地先			
問い合わせ	川崎市建設緑政局道路河川整備部 河川課 川崎区役所地域振興課			
TEL	044-200-2903 (川崎市河川課) 044-201-3136 (川崎区役所地域振興課)			
FAX	044-201-3209 (川崎区役所地域振興課)			
E-mail	61tisin@city.kawasaki.jp (川崎区役所地域振興課)			
URL	http://www.city.kawasaki.jp/61/61kusei/home/papercraft/takaramonopapercraft.htm (川崎区役所HP/かわさきの宝物・ペーパークラフト)			
交通	京急大師線鈴木町駅より徒歩約5分			
基礎情報				※川崎市の承認を得て同市発行の都市計画基本図を複製したものです。承認番号(川崎市指令ま計第159号)
由来・エピソード				
<p>■川崎区を縦貫する大運河計画の一環として昭和3年(1928)に完成。高さ20.3m、水門幅10m。社会情勢の変化から計画は中止されたが水門だけが残った。</p> <p>■白く大きな水門の頭部にあるオブジェは、往時の川崎の名産物であった梨やブドウ、桃などがモチーフにされている。正岡子規が詠んだ『多摩川を汽車で渡るや 梨の花』という俳句からもわかるように、大師河原や対岸の六郷など多摩川下流の沿岸一帯にはかつて梨や桃の果樹栽培が盛んであった。</p> <p>■水門のデザインや規模が高い評価を受け、平成10年(1998)国の登録有形文化財(建造物)に登録された。</p>				
補足・その他				
<p>■平成18年(2006)4月、水門の構造やその歴史的意義を紹介した説明板が設置された。また、川崎区地域振興課では川崎河港水門のペーパークラフトを作成。</p> <p>■平成18年(2006)11月『ヘリテージング100選』(毎日新聞社主催)に認定された。ヘリテージングとは、明治～昭和(戦前)の約70年間に作られた日本の「近代遺産(ヘリテージ)」を観光の対象として楽しむ新しいレジャーのこと。日本全国の近代遺産の中から代表的な100のヘリテージング名所と地域が選ばれた。神奈川県内の4施設(他に富士屋ホテル、横浜・関内地区、横浜・山手地区)のうち、「多摩川下流の河川施設(川崎河港水門、六郷水門など)」として川崎市内で唯一認定された。</p>				
関連シート				
				(5-2)長十郎梨のふるさと (14-1)多摩川(河口干潟・桜並木) (28-2)川崎港・運河

かわさき区の宝物シート

宝物No.	かなどこ(ふくしまてっこうじょ)
5-6	金床(福嶋鐵工所)

エリア	中央地区	シーズン	
	旭港	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input checked="" type="checkbox"/> 人物



金床と祭具一式が工場入口に鎮座している



現在では巨大な定盤がかつての金床の役割を担っている



写真提供：(株)福嶋鐵工所

所在地	川崎区港町10-18 福嶋鐵工所内
問い合わせ	(株)福嶋鐵工所
TEL	044-244-5111
FAX	044-211-3685
E-mail	
URL	http://www.fukutetsu.co.jp/
交通	京急大師線港町駅から徒歩5分



基礎情報

■福嶋鐵工所は、明治元(1868)年に川崎で創業し、鍛冶業(金属を打ちきたえて、いろいろな器具をつくる業)を始めた。当時、羽田や川崎大師付近で盛んだった木造船を造る際に用いる船釘(ふなくぎ)や鋸(かすがい)などの需要で潤うが、周囲に響く大きな槌音(つちおと)への配慮から、当初東海道沿いで創業した工場の場所を転々と変えながら、昭和10(1935)ねんに大師道に近い現在の地に落ち着いた。戦時中は海軍指定工場となり、川崎市上下水道送水管施設や味の素川崎工場製造設備建設に携わるなど、川崎の歴史とともに歩みながら近代鉄鋼業へと発展していった。所内には鍛冶業時代に使用されたドイツ製の金床(鍛冶や金属加工に用いる作業台)が大切に保存されている。

由来・エピソード

■創業者・福嶋与兵衛氏は江戸愛宕山下で刀剣・馬具類の武装品の製造販売を手がけていたが、弟が加わっていた彰義隊の敗北による難を逃れるため、川崎宿六郷川近くの東海道沿い(現在の旭町1丁目)に移住し、鍛冶業を始めたのが明治元年(1868)10月のこと。当時、羽田や川崎大師付近では木造船づくりが盛んとなり、そのための船釘やかすがいなどの大量の需要によって潤ったという。

■二代目亀太郎氏は厳父の志を堅く守り家業の発展に精を出し、そして三代目を継いだ婿養子の安五郎氏が養家のさらなる繁栄のため力を尽くした。大正初期に多摩川沿いに進出してきた鈴木商店(現・味の素)の川崎工場建設にあたって、工場で使われる生産機器の製造・修理などを一手に引き受けたのである。さらに大正12年(1923)関東大震災で施設倒壊など大きな損害を被った味の素工場の機械類修理に全力を傾け、味の素の復興に多大な貢献を果たしたといわれる。そして同年、社名を福嶋鐵工所と改称した。大正14年(1925)に完成した旧六郷橋の建設にも携わり、昭和10年(1935)には旭町から現在地の港町に本社工場を移した。安五郎氏は家業を鍛冶業から近代工場をもつ鉄工所へと発展させたのである。

■創業当初より、周辺に響く槌音が大きいことが悩みの種であり、転々と工場の場所を移し現在地に落ち着くまでに4回移転が行われたという。

■第二次大戦中は海軍の指定工場となり、川崎市の上下水道送水管敷設に携わるなど、福嶋鐵工所は地元創業で東海道、川崎宿、大師道などの歴史と共に歩み近代工場へと発展、現在に至っている貴重な存在である。

補足・その他

■ものづくりの企業にとって高度な製造技術に精通した熟練工の存在は不可欠である。大師出身で昭和26年(1951)に入社した石川精三郎氏は鉄、ステンレス、チタン等多種の金属の材質を熟知するとともに、溶接など周辺技能にも優れた熟練度の高い職人(製缶技能士)として「平成13年度かわさきマイスター」に認定された。

関連シート

- (1-1)川崎宿
- (1-17)旧六郷橋親柱(稲毛公園)
- (5-7)味の素(株)資料展示室
- (32-7)かわさきマイスター

かわさき区の宝物シート

宝物No.

5-7

あじのもとぐるーぶうまみたいけんかん 味の素グループうま味体験館

エリア	中央地区	シーズン	通年
	旭港	日時	

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 人物



写真提供：味の素(株)川崎事業所

所在地	川崎区鈴木町3-4
問い合わせ	味の素(株)川崎工場見学窓口
TEL	0120-003-476
FAX	
E-mail	
URL	https://www.ajinomoto.co.jp/kfb/kengaku/kawasaki/calendar.html (味の素HP/インターネット受付)
交通	京急大師線鈴木町駅より徒歩1分



※川崎市の承認を得て同市発行の都市計画基本図を複製したものです。承認番号(川崎市指令ま計第159号)

基礎情報

■大正3(1914)年に操業を開始した味の素川崎事業所の創立100周年を記念し、地域社会との共生をさらに目指し、平成27(2015)年に開館した。
 ■1階には、360度の4面スクリーンを使って、自然の恵みをおいしさに活かし、うま味が古代から現代の食事に受け継がれていることを紹介するシアター、うま味調味料「味の素®」の資源循環型製造工程(バイオサイクル)のジオラマ(情景模型)、「味の素®」の歴史展示コーナー、海外で販売している製品を紹介するコーナー、「味の素®」のキャラクター「アジパンダ®」グッズなどを販売する「アジパンダ®」ショップを設置した。
 2階にはMy「アジパンダ®」瓶(6g)を作れる体験ルーム、うま味を体験するうま味ホール、料理教室用キッチンスタジオが設置されている。

由来・エピソード

■明治41年(1908)、東京帝国大学教授の池田菊苗博士は、湯豆腐のおいしさに関心を持ち、昆布に含まれるアミノ酸の一つであるグルタミン酸が「おいしさ」の正体であることを突き止めた。それを「うま味」と名付け、それまでの4原味(甘味・酸味・塩味・苦味)に加えて第5の味の発見となった。池田博士は全く新しい調味料グルタミン酸ナトリウムの製造法を発明し、商品名を「味精」と名付けたが、薬品を連想させる等の理由から、議論の末「味の素」と命名された。同年に特許も取得し、翌明治42年(1909)には鈴木商店(現・味の素株式会社)の創業者、鈴木三郎助氏によって商品化された。
 ■以後、新聞広告などでの宣伝効果もあり味の素は順調に販売を伸ばす。川崎近代工場史上の第一期工場群が揃い踏みしたとされる大正3年(1914)9月に現在地の鈴木町に新工場が完成。月産1,000貫(4トン弱)の生産体制が整備されるに至った。
 ■現在の昭和電工(株)の前身、昭和肥料(株)は鈴木三郎助氏が昭和3年(1928)に設立した会社である。もう一つの前身の日本電気工業(株)の創業者・森轟昶氏はかつて鈴木氏と房総において海藻の買い付けをめぐる争った仲であったが、経営危機に瀕した森氏を鈴木氏が救済したことから生涯にわたる良き朋友関係を築いた。鈴木氏は森氏の経営者・技術者としての才能を高く評価し、自身が設立した昭和肥料の経営陣に森氏を迎えた。そして森氏の指導の下、昭和肥料は昭和6年(1931)に日本初の国産技術によるアンモニア合成に成功し合成硫酸(無機肥料)の製造を開始するに至ったが、その数日前に鈴木氏は他界していた。訃報を知り森氏は号泣したという。その8年後、昭和肥料と日本電気工業は合併を果たし昭和電工(株)が誕生した。

補足・その他

■工場見学等は要予約。(無料)
 ■予約方法 個人(10名以下):インターネット受付 団体(11名以上):電話受付
 ■見学可能日:日曜祝日、年末年始を除く毎日(メンテナンス作業日を除く)
 ■1F(シアターは除く)見学は予約不要
 ■京急大師線「鈴木町駅」は、開業当時は「味の素前駅」といった。創業者の鈴木三郎助氏にちなみ昭和12年(1937)地域一帯が鈴木町に町名変更され昭和19年には駅名も改称された。
 ■伝統的な調味料である魚醤や味噌、醤油などの穀醤のうま味も、グルタミン酸ナトリウムの「うま味」成分であった。その後もかつお節のイノシン酸ナトリウム、干しいたけのグアニル酸ナトリウム等のうま味成分が日本の科学者により発見されていくことになる。うま味の発見以後も、欧米の学会では、甘味・酸味・塩味・苦味の「4つの基本味」説が有力であったものの、昭和60年(1985)には「第1回うま味の国際シンポジウム」が開催されるなど、今日「UMAMI」は国際的な共通語となっている。また、1994年(平成6)11月には小売物価統計調査規則が改正され、「うま味調味料」の名称が規定され、広辞苑の記載も変更されるに至っている。

関連シート

(5-9)京浜急行大師線 鈴木町駅
 (25-1)昭和電工(株)
 川崎事業所本事務所

かわさき区の宝物シート

宝物No.	けいきゅうだいしせんすずきちょうえき
5-8	京急大師線 鈴木町駅

エリア	中央地区	シーズン	通年
	旭港	日時	



写真提供：京浜急行電鉄株式会社

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input type="checkbox"/> 歴史的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 人物

所在地	川崎区鈴木町2-2
問い合わせ	京急ご案内センター
TEL	03-5789-8686または045-441-0999
FAX	
E-mail	
URL	http://www.keikyu.co.jp/information/magazine/index.html (京急電鉄HP/京急沿線マガジン)
交通	京急大師線川崎駅より2駅目



※川崎市の承認を得て同市発行の都市計画基本図を複製したものです。承認番号(川崎市指令ま計第159号)

基礎情報

■鈴木町駅は川崎大師駅のひとつ手前、味の素(株)川崎工場の正門前にある。昭和4年(1929)12月10日に竣工された。70年以上も前の駅舎がペンキを塗り替えられながら建使用されていたが、平成22年(2010)4月、老朽化のため改築された。新しい駅舎では、プラットフォームに柱が1本もない構造になっている。

由来・エピソード

- 開業当時の駅名は「味の素前」駅であったが、昭和12年(1937)味の素の創業者・鈴木三郎助氏にちなみ、この地域一帯が「鈴木町」と町名変更されたことに伴って昭和19年(1944)には駅名も改称された。
- 乗降客の約8割以上が味の素の関係者で占められているという。

補足・その他

関連シート

- (1-2)六郷橋駅跡
- (5-4)京浜急行大師線 港町駅
- (5-7)味の素グループうま味体験館
- (10-1)京急発祥の地碑(川崎大師駅)